

令和8年 第7回文教厚生常任委員会会議録

令和8年6月18日 議員控室

○事 件

所管課報告事項

- (1) 令和7年度決算について（総合病院）
- (2) 令和7年度決算について（国保病院）
- (3) 渡島廃棄物処理広域連合「クリーンおしま」の火災に伴う状況報告について（環境水道課）

○出席委員（7名）

委員長	横 田 喜世志 君	副委員長	関 口 正 博 君
	赤 井 睦 美 君		小 西 雄 一 君
	斎 藤 実 君		寺 田 広 樹 君
	倉 地 清 子 君		

○欠席委員（1名）

黒 島 竹 満 君

○出席委員外議員（3名）

副議長	宮 本 雅 晴 君	水 野 博 美 君
	牧 野 仁 君	

○出席説明員（4名）

総合病院事務長	福 原 光 一 君	総合病院庶務課長	長谷川 信 義 君
環境水道課長	上 野 誠 君	環境衛生係長	竹 原 利 亮 君

○出席事務局職員

事務局長	野 口 義 人 君	事務局次長	藤 原 悟 史 君
議事係長	千 代 貴 大 君		

◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（横田喜世志君） すみません、お待たせしました。それでは、第7回文教厚生常任委員会を始めたいと思います。委員長挨拶は割愛させていただいて、事件に入らせていただきます。

◎ 所管課報告事項

【総合病院職員入室】

○委員長（横田喜世志君） 所管課報告事項①、7年度決算について、総合病院お願いいたします。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） 委員長、総合病院庶務課長。

○委員長（横田喜世志君） 総合病院庶務課長。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） 令和7年度決算について説明いたします。

別紙資料をご覧ください。

表上段①の患者数についてです。入院患者数ですが、延べ患者数6万6,182人、予算比較では、1万5,578人の減となり、前年度比較では2,351人の減となっております。

次に、②の外来患者数ですが、延べ患者数12万6,916人、予算比較では、2万220人の減となり、前年度比較では、6,575人の減となっております。

次に、③の入院収益及び④の外来収益を合計した⑤診療収益は33億4,692万円で、予算比較で7億2,040万7千円の減となり、前年度比較では、8,185万3千円の減となっております。

収益に関する特徴的事項についてでございますが、入院につきましては、令和7年5月に内科常勤医師2名が退職し、内科診療体制は、常勤医師1名体制となったことが大きく影響したものと考えております。この危機的な状況は、現在も解消されておらず、その対策として、当院の外科常勤医師による内科診療支援により、入院体制を何とか維持している状況であります。

また、精神科につきましては、国の方針のもと、社会全体の流れの中で施設入所や在宅復帰が促進され、一時的な増加は考えられますが、今後、病床使用率は4割から5割程度で推移すると見込んでおります。

外来患者数につきましては、入院同様に、内科常勤医師の退職による影響もございますが、各方面から出張医師による診療応援をいただき、診療体制を維持してきたところであります。しかしながら、一部の診療科を除くほぼすべての診療科で前年度を下回り、収益も同様に減収となっております。

また、⑦医業外収益では、医療機関に対する国の緊急支援措置が実施され、具体的には病床数削減や生産性向上、職場環境を整備。物価高騰、賃金上昇に対する支援策が講じられ、さらには、一般会計からの繰入金について過疎債に関わる利息に対しては、普通交付税の算定要件から繰入額が増額されており、前年度比較では約1億9,900万円の増額となっております。

⑧特別利益は、令和6年度では、医療裁判、一審判決における強制執行停止申し立てに関わる供託金の戻し入れ、1億4千万円を未収金として計上している一方、令和7年度では、裁判終結に伴う賠償責任保険1億円が収入される決算結果となっております。

収益的収入における一般会計収益金につきましては、9億8,572万5千円となっております。なお、このうち、公営企業債における過疎債が適用となる元利償還金につきましては、その一部を基準外繰入金として整理していますが、これらも含め、原則、公営企業繰り出し基準として、地方交付税の基準財政需要額への算入、または特別交付税を通じて、財源措置が行われているものであります。

資料記載のA欄、収益総計は、48億744万2千円。前年度比較では、6,149万2千円の増となりました。次に、費用について説明します。⑨給与費は予定した医師の人員を確保できなかったことにより、当初予算より1億6,869万5千円減の36億4,518万1千円となりました。

なお、医業収益に対する給与費の占める割合である人件費比率は101.8%であり、昨年度と比較し、8.1ポイント悪化しています。人件比率が100%を超えるということは、病院収益のうち、診療収入など本業で得られる医業収益に対し、かかる人件費を賄いきれないという、極めて厳しい状況であります。

このような結果に至った大きな要因としましては、患者減に加えて、内科診療体制も影響し、前年度比で約8,200万円の減収。一方、人件費では、人事院勧告に伴う給与費の増加と制度的な要因で当院が関与できるものではありませんが、退職手当組合負担金、退職給付費引当金が大幅に増加しており、給与費全体で約2億1千万円増加しています。

単純計算にはなりますが、収益が8,200万円減り、人件費が2億1千万円増加するということからしますと、約3億円悪化していることとなります。次に、⑩材料費は、医療用薬品や診療材料等で当初予算より2億3,446万9千円の減となり、医業収益に対する材料費の占める割合である材料費比率は16.7%であります。

⑪経費は光熱水費委託料などの費用であり、予算対比1億4,410万9千円の減となりました。⑫特別損失では、先ほど収益⑧特別利益で説明しました。令和6年度は、裁判供託金1億4千万円の支出があった一方で、令和7年度は、裁判終結に伴う賠償金等、約2億1千万円の予算執行が発生しています。

B欄費用総計で56億9,164万9千円。予算と比較して、4億7,517万2千円の減となりました。C欄差し引き収支では、8億8,420万7千円の純損失の計上となりました。表下段の現金収支を表すG欄内部留保資金は、9億2,386万7千円となり、当面の運転資金としては確保できた結果とはなっていますが、令和6年度時点では、14億6,961万9千円の現金浮遊であったことからしますと、1年間で約5億4,500万円減少したことになり、2年後には、資金不足団体に陥る可能性が非常に高い状況にあります。

令和7年度の決算につきましては、常勤医師の退職が重なった厳しい診療体制での運営。さらには、少子高齢化、急激に進行する医療圏域の人口減少。また、物価高騰に伴う各種費用の上昇や人件費においても、急激に上昇するなど非常に厳しい状況が顕著に表れた結果となっており、この事実につきましては、厳粛に受け止めているところであります。

この状況に対しまして、現段階で具体的な手立てがないのが現状であります、資金不足が迫る中、ここ数年中には、何らかの経営方針対策を講じていかなければならないものであります。先般、病院経営健全化調査特別委員会が設置され、さまざまなご提言をいただいているところであり、経営改善に向けた具体的な検討がこれからスタートするところであり、

地方では、医療従事者の減少や自治体の財政難に伴い、公的病院が縮小（聞き取り不能）に追い込まれるという事態に追い込まれています。急激な高齢化と少子化、人口減少という大きな課題に直面しており、地域医療の在り方も転換期を迎えようとしています。

当院といたしましては、地域の基幹病院として果たすべき役割を明確にするほか、適正な病床数、病床機能の追求と診療体制の在り方、業務の効率化など、あらゆる事項について検討し、徹底した取り組みにより、着実に経営改善に結びつけられるよう、努力してまいります。

以上、大変雑駁ではありますが、八雲総合病院の令和7年度決算についての説明といたします。よろしくお願い致します。

○委員長（横田喜世志君） 病院特別委員会が設置されているので、そちらをメインとして、ここでは何か特に聞きたいようなことがあれば許します。何かございますか。

○委員（斎藤 實君） あれ、ちょっとだけ確認。

○委員長（横田喜世志君） 斎藤委員。

○委員（斎藤 實君） 先ほど利息のことをお話ししてありましたか。1億9,900万。利息の関係だった、説明。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） 委員長、総合病院庶務課長。

○委員長（横田喜世志君） 総合病院庶務課長。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） それでは、繰入金の部分に係る利息でございますけれども。実は、企業債の利息につきましては、平成26年本館、現在の中央棟建て替えるときの記載がありますけれども、これの利率見直しがされてございます。

当初、当時は0.1%で借り入れたんですけども、現在、1.4%まで見直しをかけられている。

○委員（斎藤 實君） 1.4%。

○総合病院庶務課長（長谷川信義君） はい。非常に高額になってございます。

それと同時に、一般会計からの繰入基準として、この記載の元利償還金に対しましては、1/2を繰り入れるという、これが繰入基準ルール分になってございます。当然ながら、規則が上がってございますので、繰り入れる額も上がるということもございます。

ちょっともう一点ですけれども、過疎債という起債がございます。病院の借り入れをしてございますけれども。これにつきましても、繰り入れ。これは交付税に関わる部分ですけれども、全額を病院に繰り出しをしなければ、万度に交付税の繰り入れ交、付税措置がされないというルールに、数年前からちょっと変更されてございまして。

ですので、過疎債につきましては、全額借入分っていったら病院のほうに繰り入れるということになってございます。

ですので、この利息分が非常に影響して一般会計からの繰入金につきましては、上昇しているという要因になってございます。以上でございます。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） 先ほど委員長が言いましたように、特別委員会設置されて、そこでこれからいろいろ調査とかお勉強させてもらいながら進めていくので、中身の詳しい話は後ほどするんですけれども、人件費の部分で、今現在不起訴になったという医師の方の今後のことというのは、どのようになっていますか。それは今言えないんでしょうか。

○総合病院事務長（福原光一君） 委員長、総合病院事務長。

○委員長（横田喜世志君） 総合病院事務長。

○総合病院事務長（福原光一君） 3月に逮捕というかたちで当院の内科常勤医師が勾留された。その後、4月に入ってから釈放されて、当院としては、自宅謹慎というかたちで、直接診療に関わることは、今できない状況となっております。

新聞報道でもありましたとおり、不起訴となったという連絡を本人から私どもも聞いております。ですので、今後の処遇については、また病院、そして、町とも話を決めながら、この当該医師の証明については、今後決めていくというところでございますので、今現在お話ししているのは、自宅謹慎というところで今措置しているところでございます。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） 外科のお医者さんが内科を今、病棟などを見てくださいって、全体的にやっぱりマンパワーが足りない中でも悪循環になっていきそうな気がするので、その辺なんかうまくやっていければなと思うんですけれども、苦慮するところなんですけれども、見守っていききたいと思います。

○委員長（横田喜世志君） その他なければ。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 冒頭で委員長も申し上げたとおり、特別委員会がありますので、中身の細かいことについては、お伺いすることは今しませんけれども、事務方の皆さんは、こうやって議会内に報告する中で経営状況というのは本当に厳しいというのは、これは今に始まったことではなくて、ましてやコロナ禍以降この人件費率がもう右肩上に上がっていて、延べ100%という部分での危機感というのは当然、皆さんというのは見てきてるんだろうというふうに思っております。熊石も一緒ですけれども。

それで、申し上げたいのは、福原事務長をはじめ、課長方をはじめ、数字を見ている方々というのは、相当な危機感、先ほども言ったけどあると思います。この委員長をはじめ先生方、どのような感覚でおられるのかっていうものは、病院内部のお話なんですけれども、どのように感じていらっしゃるのか、当然先生方が積極的にさまざまなことを事務方の皆様方と協議しながら、この経営改善というものには向かっていかなきゃならない、本来であると。

ただ、今現状、そういう体制をまだ取られてないにしても、取れるような空気感というのはあるのかどうかっていうものをはっきり言えば、医師の皆様方の危機感というのは、どれ

ほどのものであるかというものは、これは率直にお答えいただければと思うんですけど、どうでしょうか。

○総合病院事務長（福原光一君） 委員長、事務長。

○委員長（横田喜世志君） 事務長。

○総合病院事務長（福原光一君） 特別委員会。病院の経営調査特別委員会が立ち上がりまして、庶務課長の説明のとおり、さまざまな提言をいただきながら、今後の病院経営について、ともに話しさせていただくという、そういった方針の中で、当院の我々事務方ではなく、お医者様、医師の方々がどのような意識を持っているか、そういった質問だと思います。

先ほどの倉地委員のご質問にもあったとおり、内科常勤医をはじめ、常勤医の少ない中で、非常勤の先生方の協力を得ながら、診療応援をいただきながら、なんとか総合病院という経営点を保っている。です。ので、我々としては、先生方がしっかりと診療に集中できるような環境を作ることがまず第一だと。

ただ、その中で定例の医局会ですとか、全体の会議ですとか、そういったところでは、経営的な情報はもちろんお出ししながら、ともに経営改善について考えているところでございます。このたびの特別委員会の調査委員会ですね。これにつきましては、病院内部でしっかりと組織を立てて、病院の経営について考え、提案をしていただきたいという提言書が出ておりますので、当院の安倍島委員長と話をした中で、まず病院で組織をつくって、何度も私どもなかなか具体的な接点がないというお話をさせていただいていますが、しっかりとこの病院の将来を見据えて、どこかの強みを生かして、どこを縮小してこの地域医療圏で病院を存続するかというところ、真剣に考えましょうというお話をいただいております。

です。ので、このタイミング特別委員会ができたタイミングではありますけれども、しっかりと内部組織を立ち上げて、先生方にも経営意識をさらに強めていただきながら、我々事務方が中心となって、そのままでできるものかと思っておりますけれども、もちろん先生方の協力なくしてこれはできませんので、また、全職員一丸となって、しっかりと経営立て直しをしなきゃならないこともありますので、医師はもちろんですが、全職員一丸となってですね、経営改善に取り組んでいきたいというふうに考えておりますので、また今後、いろんな提言をいただきながら、進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○委員（関口正博君） 委員長、関口。

○委員長（横田喜世志君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 10 数年前に同じく病院特別委員会というものは、八雲町議会で立ち上がって、その資料というのをすべて見させていただきました。特別委員会って、議会からは数字を見ていろいろなことが言えるんだけど、実際っていうのは、やっぱり病院が積極的に改革に動いていかないと、病院特別委員会なんていくら作って同じなんです。正直いって。

です。ので、今回というのは、やっぱりこれまでのやり方とはまた違うやり方ということで、積極的に病院側から提言をいただきましょう。赤字を減らすということではなくて、いかにして病院を維持していくかというところに、僕はある程度の繰り入れというのは、これどうしようもなく、こういう地域で自治体病院を運営している以上はね、そういう意識のもとで、決して特別委員会は何もめんどくさいこと言うかもしれないけれども、あくまでも病院を維

持するということに主眼を絞って、そのためには、病院内部の経営改善チームというものを作っていただいて、みんなで全庁的にしっかり病院を守っていきましょうという議論になんとかしていきたいなというものがありますので、その辺はご協力をしっかりとよろしくお願いしたいと。先生方にも時間かかっても、これはなんとかわかっていかなきゃならない、そこがきっと一番難しいところなんだろうと思います。

スタッフも含めてですね。看護師の皆さん含めてですけれども、時間かかってもこの病院にとっていい特別委員会にしていきたいと思っておりますので、どうかご協力のほどよろしくお願いいたします。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） 質問ではないんですけど、新たなことってということであれば、阿部島委員長になって、さっそく腎臓の講演会がありましたけれど、初めてというくらいの人数だったんじゃないかなと思って、関心の表れが結構ありました。

やる前から期待する患者さんっていうか、一般の方の声をいっぱい聞いてたから楽しみにしていったんですけど、やはり反響も大きかったので、新たな取り組みはもうできてくるから、前委員長と比べているわけではないんですけど、期待はちょっと持てるかなって、ちょっとプレッシャーなっちゃうかもしれないんですけど、そういう印象も受けました。

これは、これからもまた先生が疲れない程度に取り組んでいていただけたらなという思いも1つあったということを伝えたかったので、連絡しました。以上です。

○委員長（横田喜世志君） はい。それでは、令和7年度決算について、総合病院の報告を終わりたいと思います。お疲れ様でした。

【国保病院職員入室】

○委員長（横田喜世志君） それでは、報告事項②番目。令和7年度決算について、国保病院報告をお願いいたします。

○総合病院事務長（福原光一君） 委員長、総合病院事務長。

○委員長（横田喜世志君） 総合病院事務長。

○総合病院事務長（福原光一君） 私のほうから熊石国保病院の決算について、説明をさせていただきます。

諸事情により相木事務長から本来は説明すべきところですが、私のほうから説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○総合病院事務長（福原光一君） 国保病院、令和7年度決算についてご説明をいたします。資料1をお願いいたします。

令和7年度は、国保病院建替事業の最終年度でございました8月に新病院開院を迎え、診療体制は旧病院と変わらず、内科と外科の2診療体制、病床数は30床に減少して、稼働をしているところでございます。

まず、はじめに表上段の患者数です。①入院患者数延べ患者数で8,729人。一日平均23.9人。予算比較は、延べ患者数21人、一日平均で0.1人の減。前年度と比較しまして、延べ患者数1,555人、一日平均で4.3人の減となりました。

病床の利用率です。昨年4月から7月までの旧病院。これにつきましては、24.9%。新病院開院後、8月から3月まで。こちらは、病床の利用率は78.4%。1年を通して病院としての病床利用率は45.1%となっております。

外来患者数は1万6,103人。一日平均66.5人。予算比較は延べ患者数で257人、一日平均1.1人の減。前年度と比較しまして、1,579人、一日平均6.7人の増となりました。③入院収益と④外来収益を合わせた⑤小計は4億755万4千円、予算比較6,352万5千円の減となりました。⑥その他営業収益は、救急医療の確保に対する一般会計繰入金や健康診断、各種予防接種等の収入で3,495万円。前年度比較3,081万7千円の減となっております。

元となった主な要因につきましては、一般会計繰入金の救急医療の確保に要する経費について、新病院稼働後は、救急のための確保病床数が減少したことによる算定減でございます。⑦医業外収益は、不採算地区病院の運営に対する一般会計、繰入金補助金等であり、前年度比較1億6,854万2千円の増となっております。

増となった主な要因につきましては、一般会計繰入金の基準外の繰入金を追加したことによる増、および同補助金で病床削減病床数10床を対象とした4,104万円の病床数適正化支援事業給付金によるものでございます。

⑧特別利益2億1千万円は、年度末に大幅な資金不足が見込まれることによる補正予算の追加で、一般会計繰入金の基準があるんでございます。Aの収益総計で、10億89万1千円、予算比較1,535万5千円の減となりました。

収益の分につきましては、特に入院収益の減少による医業収益の減収が収支に大きく影響しているところです。1人一日当たりの入院診療単価は、前年度と比較して、1,656円増加の2万3,139円となりましたが、当初予算において計画をした3万円台には至らず、大幅な収益減となりました。また、外来につきましては、患者数は前年度比較1,579人の増となり、5月から2名体制となったリハビリテーションの本格稼働が患者獲得の主な要因であります。

しかしながら、新病院稼働の8月から診療報酬を算定開始したことや2名体制では、患者数の増に対応しきれない状況が続いたことで、外来収益の増に結びつけることができなかったことが大きな課題として現れたところでございます。

続きまして、費用の部です。⑨給与費は、常勤医師や看護師など予定していた人員を確保できなかったことから、5億3,354万2千円となり、予算比較6,329万9千円の減となりました。⑩材料費は、医療用薬品や診療材料等で1億4,015万3千円で、予算比較6,647万5千円の減。前年度比較1千34万円の減となりました。⑪経費は、消耗品や委託料等であり、1億7,936万4千円、前年度比較5,527万円の増となりました。

増となった主な要因は、新病院用の消耗品および備品購入、移転引っ越し経費の増によるものであります。⑮医業外費用は、企業債支払い利息や消費税関係の支出であり、7,877万円の決算で、前年度比較3,670万6千円の増は、令和6年度建替事業の企業債利息償還分の追加であります。⑯特別損失は、診療報酬査定減であり、199万3千円の欠損であります。

B の費用総計で 11 億 7,152 万 2 千円、前年度比較 3 億 426 万 6 千円の増となりました。C 差し引き収支では、1 億 7,063 万 1 千円の純損失が生じ、赤字決算となりました。令和 7 年度決算は、極めて厳しい結果となりました。国保病院建替事業最終年度であり、旧病院から新病院への移転開院を経て、将来にわたり持続可能な病院運営を実現するため、収益増収の経営改善に取り組んでまいりました。

しかしながら、人員の確保や増員が図られないことから、診療報酬増収のための基準を満たすことができず、目指していた診療単価の向上、特に 1 人一日当たりの入院診療単価の増を達成できなかったことから、収支の悪化を招いたと分析しているところでございます。

続いて、表下段の現金勘定について説明をいたします。D 流動資産は、比較的短期間のうちに現金に換えることができる資産であり、現金、預金のほか、国保、社保の診療報酬等の未集金薬品の所蔵品で、1 億 9,129 万 2 千円となりました。

E 流動負債は、1 年以内に償還しなければならない債務であり、報酬や材料費、経費の未払い分や未払い金や賞与と法定福利費の引当金等であり、8,616 万 4 千円であります。表下から二段目の G 内部留保資金は、1 億 507 万 8 千円で、前年度より 3,276 万 4 千円の軍資金の増となりました。

しかしながら、収益の部で説明をしました補正予算 2 億 1 千万円の追加があり、現金預金と内部留保資金に若干の余裕を保持して決算できたものであり、引き続き、健全な資金の確保に最大限努力してまいります。

以上で大変簡単ではございますが、国保病院令和 7 年度決算の説明といたします。よろしくをお願いいたします。

○委員長（横田喜世志君） 報告が終わりました。国保病院についても、病院の特別委員会がありますので、重要なことかそういうのだけお聞きしてみたいと思います。意見のある方というか質問がある方。

○委員（斎藤 實君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 斎藤委員。

○委員（斎藤 實君） 病院新しくなって、ちょうど 2 年ぐらい前からですかね。50 人 60 人の入院患者さんが少しずつ減らして、去年はもうスタート時点では 30 人切れる状況でスタートしております。

ですから、平成 8 年で始めて、今の病院の 成果というのが出るのかなというふうに思うんですけども、それにしてもお医者さんの内科医の高齢な方になっておりますので、その辺のところの招聘なんかはどうなんですかね。

それと、もう一点合わせて説明してもらいたい。昨年、今年度の 4 月からかな。外国人の看護師さん、ミャンマーでしたか。あそこから来るっていうお話でありましたけれども、その現状はどうなんですか。この 2 点だけ。

○総合病院事務長（福原光一君） 委員長、事務長。

○委員長（横田喜世志君） 事務長。

○総合病院事務長（福原光一君） まず、常勤医師の招聘についてのご質問ですが、4 月から私総合病院に移動しておりまして、たまたま実は、1 名熊石国病院に興味があるという内科の先生と出会うことがありまして、先日、面談をしたところでございます。代理で私のほ

うが面談をさせていただいたところでございます。非常に前向きに捉えていただいております。内々ではありますが、年内にこのままいくと、熊石国保病院のほうに勤務というところをご報告できるかなというふうに考えております。

内々でお返事はいただいておりますが、正式な報告につきましては、また委員会のほうにもさせていただきますが、とても好印象でお話を進めさせてございます。どこまで情報を出せるかというところ、55歳ではないかというところで、今話を進めております。

招聘活動もですね、国保病院の事務長。そして、私も一緒になって国保病院、そして総合病院の内科医師の獲得というところを同時に動いておりますので、成果が出せるように（聞き取り不能）できるように、今後も引き続き取り組んでまいります。

また、ミャンマー、特定技能外国人の当院でいうと、補助看さんヘルパーの方なんです、ミャンマーからお2人を招聘することで事業を進めてございます。ただ、昨年1月にミャンマーの政権が大きく変わって、国外への出国が規制されていると。

また、その後にミャンマーで大きな地震もあったということもあって、国内でも相当混乱して、基本的に新病院稼働後にミャンマーの補助看さんの2人を招き入れることで進めておりましたが、延期になっておりましたが、ここに至ってようやく国のほうの規制が解除緩和されたという報告を受けております。

早ければ、この夏にはミャンマーから20歳の補助看さんとしてお2人招き入れて、国保病院に勤務というところを進めております。総合病院では、もうすでに同様にミャンマーの方が勤務されておまして、そういったところをまた見習いながら受け入れ体制、お仕事のコーチングですとか、そういったところを今国保病院で参考にしながら進めておりますので、早ければ夏ごろに勤務を開始。

また、地域の方々にも、外国人が初めて多分熊石地域に住まれるという状況になると思いますので、地域の方々もご支援いただけるように私のほうでまたご協力をお願いするところでございます。今のところ、こういった状況になってございます。

○委員長（横田喜世志君） はい。その他ございますか。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 同じく特別委員会ありますので中身に関してはあれなんですけれど、熊石自体はこの数字を見る限りは、以前コロナ禍というのは、熊石というのは人件比率は120数%で推移しましたよね。やっぱりここも右肩上がりです。コロナ禍以降あつという間にこのような状況になってしまった。

八雲と当然構造的な状況というのは似ているところがあるんですけど、熊石の部分で心配な部分っていうのは、今内科医師がなんかもしかしたら落ち着くかもしれないってことでありますが、看護師さんです。そちらのほうの確保ということは、これから内科医師にきつとスタッフの確保というのが熊石にとっては相当厳しくなるのかなっていうのは、八雲以上にちょっと真剣に考えなきゃならないことであろうかなと思うんです。

外面的な部分というんですかね。受け入れは当然熊石です。なんですけれども、例えばそういう受け入れるための施設というものも、これからの熊石っていうことを考えたときには当然必要になってくるでしょうし、この看護師確保に向けた取り組みというのが今現在、

どのように行われているのか、おそらく人件費が高い病院というのは当然少ないスタッフで高齢の方々が増えてくるから当然、八雲もそうなんだけど。人権比率は上がっていくというのは当然なことであってね。やはり若い方々を取り込んでいく。でも、そのためには熊石はちょっとなかなか難しいだろうと。

だから、なんか一工夫しなきゃならないかという部分があると思うんだけど、そういう策ってなんか考えられるんですか、事務長。

○総合病院事務長（福原光一君） 委員長、総合病院事務長。

○委員長（横田喜世志君） 総合病院事務長。

○総合病院事務長（福原光一君） 看護師の確保は非常に頭を悩ませているもので、課題でございます。将来的に看護師に限らず、医療従事者の確保というのは、非常に厳しくなるのはもう分かっていたことですので、少ない人数でも病床を稼働できる病床数にしましょうということで、30床というところも示唆してはいるんですが、その30床もしっかりと維持していくためには、やはり今と同数を維持することが大前提になります。

委員おっしゃったとおり、看護師の平均年齢が当初40代前半から今40代後半に近づいてきております。およそ23から24名の看護師今が在籍しているんですが、やはり、あと5年、10年すると、50代を超えて夜勤をする体力、そういったところもとても問題が課題が出てくるかと思います。

やはり必要なことは、若い看護師を入れて、なるべく新規対象で高めて人件費のことを考えて、看護師の消費活動をしっかりしていかなきゃならないんですけれども、なかなか地域の小さな病院への看護師の招聘はとても難しい問題でございます。

また、看護師住宅、平成26年に2棟4戸整備いたしました。常勤の看護師2名が入っておりまして、残り2部屋につきましては、民間の派遣看護師で使用して、今住宅のほうを稼働してございます。

その他の住居となりますと、民間の住宅というのがそれほどないものですから、町営の空いている住宅を紹介して、なるべく病院で住環境を整えながら招聘活動をしているという状況でございます。町営住宅もなかなか老朽化しているところもありますので、病院のほうとしては、予算を使いながら設備を新しいものに取り替える、更新するといったところも内部的に補助しながら進めております。

ただ、やはり20名を超える看護師を維持していくのは、大変難しいところでありまして、奨学金を使った申し込みも、今全くゼロでございますので、何かしら手立てがやっぱり欲しいなというところではありますが、免許を持っている方で、興味をいただいている看護師さんがいればですね、事務長なり、庶務課の担当がしっかりと説明に伺って、何とか招聘できるように今取り組んでいるという、そういった状況を今、続けているところでございます。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 今事務長のお話にあった、この派遣看護師っていうところがちょっとこれからは熊石にとって重要な部分だってくる可能性もあるんだけど、今のお話だと看護師住宅2名の常勤医師と2名の派遣看護師さんで埋まっているという状況で、まだ欲しい

となった場合には、民間にその住居を求めなきゃならないという状況であるということですよ。

これからの熊石の病院をどのように維持していくか、ということを考えたときには、そのような投資というものも当然必要になってくるわけで、行政側は今どうしても財政健全化ということで動いているんだけど、病院を維持するためには、何が必要かというのは、しっかりとこれも総合病院と同じなんだけど、病院側から求めていると、我々も議論としてはしょうがない。

行政側がいくら財政健全化といったって、当然町を維持していかなきゃならない。病院を維持していかなきゃならないという部分に関しては、これは全く別問題ですから。どうかビビらずに、そういうことを積極的に病院側から求めているいただきたいな。

それに対して、我々も当然議論するんだけど、やっぱり病院側から材料が出てこない、なかなかそういうお話もできないと思いますので、それはやっぱり積極的な経営方針というものを出示していただきたいのは、総合病院も含めてですけど、そこをお願いしたいと思いますが、どうでしょう。

○総合病院事務長（福原光一君） 委員長、事務長。

○委員長（横田喜世志君） 事務長。

○総合病院事務長（福原光一君） 大変ありがたい（聞き取り不能）をいただきました。ありがとうございます。やはり病院の経営が大変厳しい中で、赤字がどんどん膨らんで累積欠損金が増えている状況であれば、新たな投資、医療機器の更新というのも相当考えなきゃならない。そういった時期に来ております。

ですので、医療従事者を確保するための住環境、生活環境を整える意味で、住宅の整備ですとか、設備の更新ですとか、そういったところも手掛けたいところではあるんですが、今は積極的な投資を避けている状況、あくまでも必要最低限の医療機器の更新にとどめているというところがございます。

ただ、委員おっしゃったとおり、今後この病院をどう維持していくか、どの規模で維持していくか、何年後に医療と介護のニーズが変わったときに統計をしていくかというところを見定めながら、人員の確保、組織体制を今から考えていかなきゃならないところでありますので、そういった総合的な計画をもとに、投資の活動計画を立てていきたいと考えております。

また、その時はしっかりと説明をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 関口委員。

○委員（関口正博君） あとちょっと病院からずれるんだけど、1つ気になったのはね、この国保病院を建設するときにちょっと議論になったと思うんだけど、熊石の歯科医院を病院の中に内包するっていうこともちょっと議会のほうから要望出たかと思うんだけど、あれが今そのままになってるんですよ。

それで、相当歯科医院も老朽化、あれももう 100%超えてるんじゃないかなかったです。歯科のほうの状況っていうのはどうなるんでしょうかね。これはお願いしているという状

況ではあるんでしょうけれども、この建て替えの部分っていうのは、何かお話してあるんでしょうか。

○総合病院事務長（福原光一君） 委員長、事務長。

○委員長（横田喜世志君） 事務長。

○総合病院事務長（福原光一君） 歯科の部分に関しては、当初の令和元年度の当初の計画から、病院の中にサテライトというかたちで、総合病院と同じようなかたちで地下のスペースを作って、そこに町立の歯科診療所を確保しようということで進めておりましたが、当時診療所を運営された先生との意見が合わずといいますか。病院に入ることがちょっとできなくなってしまいました。

当時の町長とも積極的にそこは招聘しましょう、というかたちで進めておりましたが、話が具体化できなかったというところでございます。

今の病院敷地に、広い病院敷地の中に歯科診療所、もしくは調剤薬局、そういったところを招聘できるスペースも別名で設けているところでもありますので、まだまだ我々としては、病院の今後の形態によっては、歯科診療所の招聘ですとか、その他の付帯施設の招聘というところも進める余地はあるのかなとは思っておりますが、当時の計画を進めた中では、話を病院の中に歯科診療所を開設するということではできなかったというところではございます。

○委員（関口正博君） 委員長、関口。

○委員長（横田喜世志君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 熊石としては、今歯医者さんというのを維持していかなきゃなんないという部分も、もちろんそこを見ていただく医師の方がいるかどうかというのは、大きな問題でしょうけれども、そういう部分は、やっぱり全体的な子会社の方々の生活ということ考えたときには、必要な議論だと思いますので、建物は当然古くなっていくことでありますし、先ほどの宿舍の件もそうなんだけど、歯医者の件というのもぜひ計画の中で、熊石としてなんだけど、国保病院にお願いすることではないんでしょうけれども。

我々も今、これからこういう町有施設っていうんですか。そういうものの整理というのが議会のこともしっかり把握しなきゃならないという中で動いていきますので、どうか熊石の方々にもそのようなことというものは、ぜひ必要なものなんだから、という部分がもしあるのであれば、やっぱりそれは計画としてしっかりして残していかなきゃならないものだと思いますので、病院敷地に建てることも。

もしくは、当然これからは医療というものがどんどん衰退、減少していく中で、もしかしたらこの RC の現状の熊石の国保病院のどこかにそういう設備を設けることができるという可能性だって今後あるかもしれませんので、そういうのもちゃんと長期計画を練ってやっていただければなというふうに思います。お願いいたします。

○委員長（横田喜世志君） はい。質問はなければ、令和7年度決算について、国保病院の報告を終わらせていただきます。国保病院、お疲れ様でございました。

【国保病院職員退室】

○委員長（横田喜世志君） それでは、3番目の所管課報告。渡島廃棄物処理広域連合クリーンおしまの火災に伴う状況報告についてを環境水道課お願いします。

○環境水道課長（上野誠君） 委員長、環境水道課長。

○委員長（横田喜世志君） 環境水道課長。

○環境水道課長（上野誠君） お疲れさまです。環境水道課、よろしくお願いします。

前回5月21日の本委員会におきまして、クリーンおしまの火災の経過、被害の状況、広域連合及び八雲町のごみ処理の対応について報告させていただきました。本日は、その後の状況につきまして報告させていただきたいと思います。今後におきましても状況の変化に応じて、適宜本委員会へ報告させていただきますので、ご理解を賜りたく存じます。

それでは、引き続き、係長から本日の報告内容について説明いたします。

○環境衛生係長（竹原利亮君） 委員長 環境衛生係長。

○委員長（横田喜世志君） 係長。

○環境衛生係長（竹原利亮君） それでは、お配りしております資料に沿って説明いたします。

一つ目、八雲町におけるごみ処理の状況についてです。5月23日から長万部町豊津にありますリレーポート山越が再開され、条件付きではありますが、日々の収集ごみはリレーポートに搬入している状況となっております。

条件とは、個人及び事業者による直接搬入によるものと粗大ごみは受付できないこと、また、リレーポートの受け入れ量に達したときは、それが解消されるまでは仮置き対応となることであります。

次に八雲町における仮置きの状況です。6月10日時点で、可燃ごみ約190t、可燃粗大ごみ約21tとなっております。

次に二つ目、費用負担の考え方についてです。火災に伴って発生する経費は、火災の消火に要した火災対応経費、各市町での仮置き対応に係る応急処理経費、代替処理施設での処理を委託するための広域処理経費に区分し、その負担方法につきましては連合構成市町長会議での確認及び連合議会全員協議会における了承を経て、広域連合全体で負担する従来の方式を基本に整理する方針とされております。

構成市町1市9町における、これら経費の令和9年3月までに見込まれる総額が新聞報道でありました29億円の見込みというところであります。

具体的な各市町の負担割合、対象経費については従来の基本的な考え方のもと、各市町との協議により今後整理されることとなっております。

次に三つ目、必要経費の編成と支払方法についてです。まず、広域連合予算について説明させていただきます。

連合の現行予算の内、火災による焼却施設の稼働停止に伴い予算執行できなくなると見込まれる経費は減額補正を行う。火災発生日の4月29日から6月30日までに要した経費は、専決処分により整理する。7月1日から12月31日までに要する経費は補正予算により対応する。これは、年内に今後の復旧方針や方向性を判断する必要があることを踏まえ、当面は12月までの経費を予算補正することとして整理するということです。

各市町が仮置きなど緊急対応として既に支出した経費は、広域連合予算から各市町へ支払われることとして整理されております。

次に、八雲町予算についてです。仮置き対応に係る応急処理経費として、火災発生日の4月29日から12月31日までにおいて町が契約主体となり支出する経費を7月6日開催予定の第4回臨時会において補正予算を上程させていただきたいと考えております。補正の額につきましては、現在積算中であります。

最後に四つ目、仮置き堆積物の処理についてです。八雲町の仮置きごみにつきましては、連合の補正予算が可決されましたら、岩内地方衛生組合に運搬し随時処理される見込みとなっております。

以上、現状を整理しました事項につきまして、本日の報告とさせていただきます。

○委員長（横田喜世志君） 報告が終わりました。質問、意見のある方いらっしゃいますか。

○委員（斎藤 實君） ちょっと一つ。

○委員長（横田喜世志君） 斎藤委員。

○委員（斎藤 實君） 八雲町の処分、寿都町って言いました。

○委員（倉地清子君） 岩内。

○委員（斎藤 實君） 岩内。それで、その運搬費用なんかは八雲町で見るわけ。それとも、全体の中でまだ遠くに行かなきゃない地域もあるわけですね。だから、その辺のところはどうなんですか。

○環境水道課長（上野誠君） 委員長、環境水道課長。

○委員長（横田喜世志君） 環境水道課長。

○環境水道課長（上野誠君） まず、2か所の処理組合に運搬する分は、今八雲町で仮置きしている部分を運搬するもので、これにかかる予算につきましては、連合のほうで予算措置をしまして、連合のほうで契約支出というかたちになってます。

○委員長（横田喜世志君） そのほか。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） いったん整理させていただきたいんですけど、仮置き部分のものを岩内に搬入。それで、今現在きているのは、山越のリレーポートでしたっけ。

○環境水道課長（上野誠君） まあ、そうですね。豊津の。

○委員（倉地清子君） はい。わかりました。

○委員長（横田喜世志君） そのほか。

○委員（寺田広樹君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 寺田委員。

○委員（寺田広樹君） 両括弧2の八雲町予算の考えで、経費はまず積算中とのことなんですけども、新聞に載ってた29億円かかるよと。

それで、クリーンおしまでは運転停止してた経費は5億円ほど浮くそうなんですよね。差し引いて25億円。これを1市9町で各持ち出すんですけども、八雲町はおよそ12%負担なんですよね。だとすると、3億円ぐらい負担する考えなんですけども、そういう積算根拠というのは、根拠としてはそういう積算で合ってますか。

○環境水道課長（上野誠君） 委員長、環境水道課長。

○委員長（横田喜世志君） 環境水道課長。

○環境水道課長（上野誠君） そうですね。今の寺田委員さんおっしゃったとおり、これまでの実績からいくと、大体連合の全体費用の 12%を八雲町が負担しているというかたちになってまして、これは費用負担の考え方については、従来の考え方を踏襲するということで、今までの積算の方法が施設の運用に関わる分を全長で均等に割る分と、あとは、前々年度のごみの排出量によって、按分して経費負担率を出しているということで、今回もそういった考えのもと、各市町の負担金額が算出されるものとは思いますが。

まだその部分が明確に各町との協議によりということを言われていますので、ちょっとまだ明確には分かりませんが、おそらく今までのかたちを踏襲するものだと考えています。

○委員長（横田喜世志君） その他ありますか。

（「なし」という声あり）

○委員長（横田喜世志君） 1つ私からいいですか。

5月23日から条件付きで受け入れが再開しているって言ってましたが、これはどこへ持って行って処理してるんですか。

○環境水道課長（上野誠君） 委員長、環境水道課長。

○委員長（横田喜世志君） 環境水道課長。

○環境水道課長（上野誠君） これはリレーポート山越に搬入する分を条件付きで、という意味合いです。

○委員長（横田喜世志君） いやいや、持って行った先。

○環境水道課長（上野誠君） 持って行った先は、苫小牧の処理施設です。

リレーポート山越と森にあるリレーポート茅部ですか。その部分を苫小牧の処理場に持っているということに。

○委員長（横田喜世志君） 森町か。ちょっと聞いた話だけど、単位はちょっと覚えてないんだけど、51tっていう話聞いたんですが、これは3町合わせて、日もしくは月の量なんだろうか。

○環境水道課長（上野誠君） 委員長、環境水道課長。

○委員長（横田喜世志君） 環境水道課長。

○環境水道課長（上野誠君） 苫小牧の受け入れ数量が週120tで、そのうち51tがリレーポート山越の受け入れ可能ということになります。

○委員長（横田喜世志君） もう1つ。クリーンおしまつて、炉が2つあるって聞いたんですが、火災が起きたのは片方で、もう1個は運転してないんですか。

○環境水道課長（上野誠君） 委員長、環境水道課長。

○委員長（横田喜世志君） 環境水道課長。

○環境水道課長（上野誠君） 実質のクレーンの操作室だとか、そういった動力盤がすべて火災で損傷してますので、炉が生きていたとしても、施設自体稼働ができないという状況です。

○委員長（横田喜世志君） はい。他なければ。

（「なし」という声あり）

○委員長（横田喜世志君） 渡島廃棄物処理広域連合クリーンおしまの火災に伴う状況報告について、報告を受けたということで、環境水道課の皆様ご苦労さまでした。

【環境水道課職員退室】

○委員長（横田喜世志君） （２）報告事項についての協議となりますが、何かございますか。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（横田喜世志君） 関口委員。

○委員（関口正博君） このクリーンおしまの一点ですけど、僕と寺田委員がその委員になっていますので、先行的にお話は聞いてたんです。それで、先ほど寺田委員がおっしゃった２億数千万円というのは、ここで我々に示された数字はまだ担当課のほうでは精査中ということでありましたけれども、八雲町の負担分においてはそれぐらいあるという。

施設全体が先ほど係長から申し上げていたように、爆風で飛んでしまった部分と、あと消火活動によって水没してしまった部分があるので、施設としても今現在は使えない状況になっていることと、その様々な機器の修理の精査とかにまだまだ相当時間がかかるよということ。それと、致命的なのは、肝心かなめのそういう廃棄物の炉だと思うんだけど、それが傷んでいる可能性があって、国によってですけどね。

そうすると、もつともつと想定以上に時間がかかる必要があるよっていうことも委員会の中では示されております。まだまだ原因究明等も含めて時間がかかるということです、それはまあ追って我々委員のほうにも報告あるんでしょうけれども。

もしかしたら、町の負担というものは、これからどんどんまた増えていく可能性があるということは覚悟しておかないといけないなということと、この原因なんだけど、おそらく最後まで出てこないですよ。ある町議会の議員が、北斗市で当然管理しているんだけど、ちょっと北斗市さんの責任問題にしちゃうんですか、みたいなことを申し上げたの。

それで、そこで出たのが北斗市長なんだけど、いや、あのねって。謝罪がないという。皆さんと北斗市は生ごみ 100%を分別して処理します。要は、発火元は別にある。だけど、爆発っていうのはガスの充満だから、これは生ごみですよってことなんですよ。はっきり言わない。北斗市は我々じゃねえぞ、そんなもんと。あんた達の出したごみだよ、これって。生ごみちゃんと分別している。要は、発火はね、八雲と同じ原理で今までのリチウム電池だとかが混じってしまったというのは、まあ考えられるでしょう。それで引火してガスが爆発したということだから、すごい被害ですよ。きっと皆さんが思っている以上の被害です。クリーンおしまは。

でも、その原因となったのは、もしかしたらこれきっと最後まで出ないと思うけど、生ごみに起因するメタンガスの発生じゃないかなっていう。僕はちょっとこれ予測なんで終わってからのことになるんだけど。

だから、生ごみ処理っていうものを今回八雲でも、リチウム電池のときに色々そういうことがあって、大変な被害損害を被ったけど、この辺っていうのもちょっと相当真剣に考えな

いと、また同じことが繰り返されてしまって。仮に八雲で単独に炉を持つっていう計画もないわけではないでしょうが、そうなった時には、ちゃんと運用状態っていうものをしっかりしなければ、そんなものは作れないよ。町民のそういうゴミの分別意識だとか、そういうものが高まってこない限りは、八雲でいいよ。そんなものだったら単独で作るよなんて、これ言えないなと思って、正直なとこね。

分別に対しては、議会としても真剣にちょっと取り組まなきゃならない。これは財政健全化にもつながる部分だからっていうふうには、今回だって相当負担出るでしょうから。それを強く感じたと思うんで。ね、寺田議員。

○委員（寺田広樹君） はい。そうですね。もうクリーンおしまの操作パネル、集中操作パネル室っていうんですか。4階にあるらしいんですよ。それで、熱が全部操作室に充満しちゃって、機器がもう焼きただれてるんですよ。だから、もう全然施設としては今機能できない状態を明らかにっていう状況でしたね。

○委員（赤井睦美君） あの会議室は無事だったんですか。

○委員（寺田広樹君） 会議室は別な、そこで会議できなくて。僕は多分市役所の一室で。

○委員（関口正博君） いつも我々会議してるそこは、爆風で（聞き取り不能）。

○委員（寺田広樹君） そうなんですよ。もう使えないんですよ。大損害ですね、あれは。

○委員（赤井睦美君） 爆風。

○委員（関口正博君） でも、僕としてはそうやってキレてました。静かにキレてましたよ。

○委員（寺田広樹君） 私たちは分別してますってね。

○委員（関口正博君） いや、北斗市は生ごみ 100%分別なんですけどね。

○委員（赤井睦美君） どうやってやってるんだろう。

○委員（関口正博君） だから、その辺というものも、やっぱり時間かかる取り組みだろうから、やっぱりしっかり進めなきゃならないと思うよ。

○委員（斎藤 實君） どの町の責任どうこうよりも、しっかりとやっぱり犯人特定して。そしたら今後こういうふうな気をつけようやというものを作っていくかないと、ゆるくないと思うんだよね。

○委員（寺田広樹君） 消防の現場検証でも不明でしたよね。

○委員（関口正博君） 最後まで不明に思う。

○委員（寺田広樹君） ああ、そうですね。原因不明なんですよ。

○委員（斎藤 實君） 船越英一さんに言えばいいべき。

○委員（小西雄一君） あ、いいですか。

○委員長（横田喜世志君） はい。

○委員（小西雄一君） 八雲のそれこそリサイクルセンターのね、火災である程度保険がおりると。クリーンおしまの場合、保険って担当課に今思い出してあれなんですけど、いくらかはやっぱり保証ってされるんですか。

○委員（寺田広樹君） 国と交渉するって言ってましたね、委員長。

○委員（関口正博君） これからきっと保険も含めた、それと、交付税措置も含めたものになっていくのか。きっと、（聞き取り不能）で数千万円というのは、何かしらの措置をされていくよね。

○委員（斎藤 實君） 保険は入っているよな。

○委員（赤井睦美君） もちろんね。普通の家でも入ってるよね。

○委員（小西雄一君） ただ、全額は無理ってことでしょ。だから、その2億5千万、3億円の負担が多少はもしかしたら少なくなる可能性もあるんです。

○委員（関口正博君） それで、こうやって堆積してるでしょ。生ごみが入っていることによってもう腐食が進む、臭いがたつ。なおさら今度処理も。

だから、北斗市はそれ心配がいらないんだって。だから、どこに置いてもいいよ。借りの場なので。置き場の心配なんてする必要ないよ。

（何か言う声あり）

○委員（赤井睦美君） どうやってやってるんだろう。うちも完璧にやりたい。

○委員（関口正博君） 生ごみ入っているがゆえに、牧柵だって八雲は付けなきゃならないでしょ。

○委員（赤井睦美君） そうそうそう。カラス対応も。

○委員（関口正博君） だから、そこら辺のちょっとね、意識を強く持っていかなきゃなんないだろうなって思いますね。俺もう分別してねえから。

○委員（寺田広樹君） 運搬費かけてでも、多額な費用をかけてでも、仮置き場のものは全部0にするって言ってましたね。それが優先事項って言ってました。

でも、かなりお金かかりますよ、運搬。八雲から今言ったみたく、苫小牧に運ばないといけませんからね。

○委員（関口正博君） 苫小牧まだいいよ、十勝のほうも。

○委員（赤井睦美君） えー、十勝。

○委員（斎藤 實君） なんか、南部のほうも説明あったんだ。そしたら、苫小牧とかそっちのほうって、まだ上まで行かなきゃねえって。

○委員（寺田広樹君） 一番の焼却能力高いの、札幌市らしいんですけど、その力なくて、ちょっと消化できないとは言っていましたね。

○委員（関口正博君） 運悪いことにね、函館のごみ処理場も炉を1つか2つか、今ちょうど大規模改修している最中。

○委員（寺田広樹君） そうです、そうです。

○委員（関口正博君） それで、函館がまともだったら、それなりに受け入れはできるんだけど、それがちょっとできないたまたまそういうタイミングだったってということもあるの。

○委員外議員（牧野 仁君） 1時間半（聞き取り不能）。

○委員（斎藤 實君） まあ、少しずつじゃんこはかかるべ。

○委員（関口正博君） ああ、もう。施設直すのは相当かかりますよ。

○委員（赤井睦美君） えー。

（何か言う声あり）

○委員（小西雄一君） 乾燥させてさ。生ごみを乾燥させる機械あるしょ。

○委員（寺田広樹君） パリパリ級。

○委員（小西雄一君） そういうのも（聞き取り不能）いけないかしらん。

○委員（寺田広樹君） あれ、5万円しましたよ。ミニサイズが2万円なんで。

○委員（関口正博君） リサイクルセンターは以上です。

○委員長（横田喜世志君） いいですか。

（「はい」という声あり）

○委員長（横田喜世志君） 今を受けて、じゃあその他何かあれば。

（「なし」という声あり）

○委員長（横田喜世志君） 前回いろいろ調査しなきゃいけないっていう項目が話されて、その中の子育て支援の効果の検証、学校適正配置。それから委託費について。それから、ごみの減量化。委託費って、今手元にあると思うんです。6年から8年までの左欄に書かれているやつで、文教厚生常任委員会所管の事業として、6年から8年まで5つあります。

この中で例えば総務でもやりましたが、調査しなきゃいけないっていうものが皆さんからあれば、それを優先的に調査するということをしなきゃいけないなと思いますが、どうですか。

○委員（赤井睦美君） さっきの子育てで一緒にできるのは、子ども子育て支援事業計画策定業務委託料かなって。

○委員長（横田喜世志君） 令和6年度5ヶ年計画ね。

○委員（赤井睦美君） はい。

○委員長（横田喜世志君） これを出た子育て支援効果の検証と一緒にやっていこうという感じですか。

○委員（赤井睦美君） 金額はちっちゃいと思うんだけど、20年ぐらい前に、これ住民生活課でやってた時期があって、今は国の制度も新しいところが出て変わってきているから面倒っていうのもあるけど、とともにAIもこんなに普及して、みんなが一般的に使ってるっていうのを見ると、ここまで書けなくてもできるのかなという思いはありました。

○委員長（横田喜世志君） これでいけば、要は令和6年に3期目だから15年ですよ。一期、二期、三期、5年ごとにやってるので。俺から言うのもあれなんだけど、特定事業をやるときに交付金だとかの3点があるんだよね、実際ね。業者を使わないと出ないっていうのが実際あったりとかするんで、そこを聞いてみないと、なんとも。自前だけでやってんなら、無駄かもしれないけど。

○委員（赤井睦美君） じゃあ業者のための補助金か。

○委員長（横田喜世志君） そうそう。

○委員（赤井睦美君） 違った意味の公共事業。

○委員（斎藤 實君） だから。

○委員長（横田喜世志君） そういうのが、例えば政府からっていったね、そうやってお金出すから使えっていうと、政府の方針にならぶ事業計画になるってことさ。

○委員（赤井睦美君） それはそう。だから、みんな同じなんだわ。

○委員長（横田喜世志君） ということで、ただそれはとりあえず調べてみたいということ。あと、先ほどのごみの減量化でいけば大変時間もかかる。まあ、要は町民の意識改革が必要だっていう部分とかもあるんで、この際ね。

だから今、収集している燃えるごみ袋。これは確実に今のところ、苫小牧に運べていると。だから、23 日前の受け入れできなかった生ごみが混ざっているであろうごみが堆積されているんですよね。実際はね。

○委員（赤井睦美君） それと、さっきの北斗市で生ごみゼロっていうのをね、分別 100% どうやってやってるのか知りたいですよ。

○委員（関口正博君） うん。調べる。だけど、なんか世界を調べたら、結構日本って売れるんだね。

○委員（赤井睦美君） そうなんですね。

○委員（斎藤 實君） 熊でも出なければね。我々もコンポストを持って、あれやってるんだけどさ、畑に持っていないんだよ。もう臭い嗅いだらあちこち掘り返るんだもん。

○委員（赤井睦美君） すごいね。うちはやってるけど、来ないわ。

○委員（斎藤 實君） だからどうしても出さざる得ないのさね。

○委員（関口正博君） まあ、今そういう機械も、乾燥させる家庭用の機械とかも（聞き取り不能）は出てる。

○委員（斎藤 實君） （聞き取り不能）。

○委員長（横田喜世志君） いやいや、電動のコンポストで堆肥化しちゃえば臭いしないし。

○委員（斎藤 實君） ほんとかね。横田さんの臭いよりも動物のほうの臭いは強いんでねえか。

○委員長（横田喜世志君） 丸いコンポスト。生ごみそのまま放って促進剤ばらまいて、っていうのは生だから。でも、電動は室内でやるから。室内っていうか。

○委員（赤井睦美君） 生ごみ乾燥機。

○委員（関口正博君） 乾燥させて、それはごみで。

○委員長（横田喜世志君） 本当の完熟体形にしちゃうって。

○委員（斎藤 實君） したら、ホーマックさ行けばあるわけだな。

○委員（関口正博君） ただ、それ国の助成金なんで。

○委員長（横田喜世志君） （聞き取り不能）で出るから。町から助成が。

○委員（斎藤 實君） ああ、ほんと。1つ買おうかしたら。

○委員（寺田広樹君） 町のごみ処理機の条件は、バイオは助成出ませんから。

○委員（赤井睦美君） ごみ処理だ。処理機は出るしょ。

○委員（寺田広樹君） 処理機もどうだったかな。いろいろ条件が厳しかったですよ。出ましたっけ。

○委員（赤井睦美君） ほんと。生ごみ処理機は。

○委員長（横田喜世志君） コンポスト系は出る。

○委員（寺田広樹君） 出ましたっけ。なんかバイオ分解は出ないんですよね。確か。ごみの。自分ちょっと調べたことあったんで。

○委員（赤井睦美君） ぜひ。

○委員（小西雄一君） 自分の畑に還元して、野菜がまた。

○委員長（横田喜世志君） それで、条例で学校適正配置と委託料と子育てはこの部分で先ほど5カ年計画と合わせてやっていくと。学校的成果はその後。

○委員（関口正博君） ちょっとね、この学校の適正配置とこの子育て支援なんだけど、実際には、子育て支援に関しては、町の事業として当然やってるんだけど、その中でも要は道支出金とかそういうのが絡んでくるんだよね。

実際は、これらの町独自の政策をやることによって、町の単費っていうのがどのくらいで出ているのかっていうのをまず正確につかむんで、学校もそうなんだけど。学校1つあることによって、町はどのくらいの負担をしてるのかっていうのをまず抑えるべきかなっていうのはあるんだよね。

確かに子育て支援に関しては、効果。効果って言ったって人口はどんどん減ってきてるし、要は子供だって全然出生率は下がる一方なんでしょ。それで、費用対効果ったら、なかなかそこに求めることは難しいんだけど。町が実際どのくらい負担しているのかっていうのをまずこれをちょっと簡単に出るよね。

○委員長（横田喜世志君） どれだけ出しているかというのをね。

○委員（関口正博君） それで、この事業に対して国からいくら、道からいくらって予想つかめるんだけど、まずそこを我々も数字として抑えるべきかなっていうふうには、おそらく数億円単位で子育て支援制度やってるわけなんだけど。3億、4億はあるのかな、きっと今。じゃあ、どの程度町の単費で出てっつのかなっていうのはあるよね。

○委員長（横田喜世志君） まず、そこを知らないと話のしようがないというやつね。

○委員（関口正博君） あと、学校も1つ学校あることによって、どのくらい町って負担をしなきゃならないんだろうっていうね。

じゃあ、合併することによって、どのくらい町の負担が逆に増えるところどうなんだろうということも当然検証していかなければなんないし。合併してっていうのは簡単なんだけど、じゃあ、それによって、どれくらい町は負担が減るのか、増えるのかというところをやっぱりまずそこを抑えるべきかなと。

○委員長（横田喜世志君） 熊石側はがっぱりやったから分かりやすいかもしれないね。

○委員（関口正博君） データを取りやすいかもしれない。

○委員（斎藤 實君） プラス・マイナスどうなのかなって。1つずつやっていったほうがいいんじゃないの。どれもこれもというより、まずはこれだけやってみよう。そして、次資料こうしようやとって決めていかないとさ。

○委員長（横田喜世志君） そうすると、とりあえずごみは後回しにする。

○委員（関口正博君） ごみはちょっと置いておいて、まずそこを（聞き取り不能）。

○委員長（横田喜世志君） 学校、委託費。どれを優先する。委託費も子育てのうちにうちっちゃうとか、一緒に入る内容なんで。そしたら、とりあえず子育て方面先にやって。

先にやってっていうのは、お金がどうついてるっていうのを調べてもらって、それを叩き台にして、中身が理解ある程度できたりしたら次の学校に行きますか。

○委員（斎藤 實君） うん、どっちは決めたほうがいい。

○委員長（横田喜世志君） そしたら、子育て支援関係のお金の勉強しますか。

○委員（斎藤 實君） はい。そのほうがいいんでない。

○委員（関口正博君） これしかかかってないよって言うのであれば、したらこれはいいよねって。お金に見えない効果ってやっぱりあるからさ。そこだけわからない部分だから。

○委員長（横田喜世志君） まあね。実際ね、要は10円のものが100円の効果もってくる可能性もあるから。したら、それを。

○委員（関口正博君） そこは事務局で調べる。

○委員長（横田喜世志君） 調べれるのかな。

○委員（関口正博君） 一つ一つの政策。例えば、医療費。要は、総予算7千万とか8千万円だったんですけど、そのうちに町が負担するところがいくらあるのか。

○委員（斎藤 實君） あと、国保がなんぼだとか。

○委員（関口正博君） （聞き取り不能）のほうだって、町がどのくらい負担してるのか。

○議会事務局長（野口義人君） 制度上のガイドラインみたいやつですよ。何%負担、何%負担の国、道、町、単費。

○委員（関口正博君） あと給食でしょ。

○委員（斎藤 實君） いや、いろんなものあるからさ。

○委員長（横田喜世志君） 子ども関連、全部。

○委員（斎藤 實君） 忙しいけどね。

○委員（関口正博君） そこらへんは、出すのはそんな面倒じゃない。そこだけちょっと資料。

○議会事務局長（野口義人君） 交付税の関係は、ちょっと分かりづらいんで、学校はね、分かりやすい、、ですよ。1校あれば、そこで1千万入ってくるんで、道は学校が維持するような国からの交付金たくさん入ってきますよ。

ただ、それを地域が許さないとか、親御さんが許さないとかっていう部分あって、教育環境としてはまずいだろうということで、統廃合ね。熊石の場合（聞き取り不能）。子育ての部分では分かりました。

○委員（関口正博君） それ、ちょっとお願いします。

○委員長（横田喜世志君） お願いします。はい、そんな感じで来月は。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） 次回のご予定ですが、総務と同じく7月16日木曜日で時間も総務が終わった後、セットにさせていただくことを予定してございます。

○委員長（横田喜世志君） ということで。

○議会事務局議事係長（千代貴大君） 7月16日木曜日です。

時間的には総務のほうを先にやっていただいて、その後というふうに考えてございます。

○委員長（横田喜世志君） ということで、第7回文教厚生当委員会を終わりたいと思います。お疲れ様でした。

〔 閉会 午後 4時20分 〕